

産業廃水処理分野における地域企業の技術力向上

産業技術連携推進会議 環境・エネルギー部会、熊本県産業技術センター、静岡県工業技術研究所、愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター

授与の理由

- ・環境・エネルギー部会の活動として、地域産業活性化人材育成事業を活用して、産総研の微生物解析データを用いた産業廃水処理分野における技術力向上を図った。
- ・熊本県、静岡県、愛媛県の実地企業の廃水処理に関する課題解決を図るとともに、企業の技術力向上に貢献した。また、JST A-STEPやNEDO新エネシーズ事業の獲得に繋がった。

活動内容

地域産業活性化人材育成事業を活用した産総研と公設試との人材交流・連携

▼環境・エネルギー部会の活動として、地域産業活性化人材育成事業を利用し熊本県産業技術センター（平成24年度）、静岡県工業技術研究所（平成30年度）、愛媛県産業技術研究所（旧愛媛県工業技術センター：平成19年度）の各地域公設試との協力体制を強化。

▼産総研が有する最先端の環境微生物解析技術が連携の中核となり、地域企業が問題として抱える各種産業廃水処理分野での処理性能向上や運転維持管理の高度化といった技術力の向上およびイノベーションの推進に貢献。

熊本県産業技術センター

食品製造メーカーが抱える油分の高い拉麺店舗廃水処理に関し、水処理装置メーカーの協力のもと熊本産技センターが膜分離活性汚泥法（MBR：写真）の開発を推進。産総研が微生物解析で技術協力を行った。JST A-STEP熊本復興枠のプロジェクトを獲得し、実用化の鍵となる油分解に寄与する微生物を検出した。



静岡県工業技術研究所

食品製造工場で発生する残渣の嫌気性微生物処理に関し、静岡工技研が保有する可搬型メタン発酵プラント（写真）で現地実証実験を実施。産総研の微生物解析データを融合することで、プラント運転維持管理の高度化に向け、技術力強化を促進した。



愛媛県繊維産業技術センター

今治タオル産地が抱える染色廃水処理に関し、繊維産業技術センター、水処理装置メーカーが創エネ型廃水処理プロセスの開発を推進。産総研が中核微生物の特定を行うべく技術協力することで、NEDO新エネシーズ事業のプロジェクトを獲得した。

